

サハ共和国・ヤクーツクだより ①

杉嶋俊夫

サハ共和国という国の名前をご存知でしょうか。私は15、6年前、たまたまサハ共和国から来た口琴演奏者たちによる演奏会に参加したことがありました。その演奏会でのサハ共和国についての説明で、サハ共和国はロシア連邦構成国としての極東の国で、口琴がサハの民族楽器として誰でも演奏できるように、なんと学校には口琴の時間が必修であるということなどを聞きました。今回、ネット検索をしてびっくりしました。インドとほぼ同程度の広さの、日本国の8.5倍の面積を有し(ロシアの89連邦構成主体中最大)、ダイヤモンド、石油、天然ガス、石炭等の資源を豊富に埋蔵した国なのだそうです。

昨秋、Emmeさんのボイストレーニング講座に参加された杉嶋俊夫さんが私たちと一緒に食事をしたことから、今年春から7月までの半年間、そのサハ共和国へ日本語講師として行かれることを知りました。どんな国か、人々はどんな生活を送っているのか、具体的に知りたいのでサハ共和国だよりを送って下さいとお願いしました。早速送って下さった第一報です。‘わんりい’の皆様も是非一緒に楽しんで下さい。



昨年末のテレビの特番や先月の新聞の連載で、東シベリアにある世界一寒い村オイミャコンのことを知ったかたはかなりいらっしゃるのではないかと思います。私は日本からその村へ行く時の経由地点にあたる、ヤクーツクという町にきています。6月までここで日本語の講師をする予定です。

ヤクーツクはロシア・サハ共和国の首都で、人口約40万人の比較的小さな町です。オイミャコンには負けますが、最も寒い1、2月にはマイナス40℃以下まで気温が下がります。その時期は昼間は太陽が地平線から顔を出した状態で留まり、一種の霧が町中に立ち込めます。私は3月中旬に赴任したた



市の中心部の交差点(雪が解け始めた頃、4月上旬)。日曜だったので人が少ない。

め残念ながら体験できませんでした。4月初旬現在の気温はマイナス10℃ぐらい、日照時間は日本と変わらず、あまり寒いとは感じません。

ロシアの都市に長期滞在するのはこれで4回目になりますが今までと大きく違う点があります。それはアジア系の人々が多いことです。ヤクーツクはロシア人がつくった町ですが、のちにサハ人

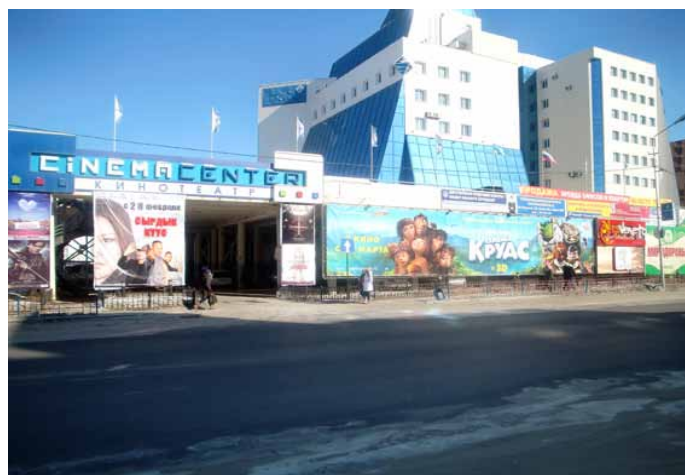
も移ってきて、共存しています。店の看板も、ロシア文字で書いてあってもよく見るとサハ語だったりします。

歴史的にみると、もともとバイカル湖周辺に住んでいたトルコ系の人々が北上して現在の地にたどりついたと言われていています。そのため顔

もモンゴルの人々によく似ています。私の職場には日本の某芸能人にそっくりな女性がいて、彼女の顔を見るたびにちょっと不思議な気分になります。

ここに来て強く感じるのは、伝統文化の生命力です。昨日、大学の授業で自分たちの国や文化を日本語で説明する練習をやらせたところ、伝統料理と装身具の話で盛り上がり止まらなくなっていました。現地の音楽や舞踏芸術の豊かさも感じられます。ほかにも魅力的な要素はありますが、この続きはまた次回させていただきたいと思っています。

(2013年3月)



市の中心部にある映画館。映画館は市内に4つあります。この写真の映画館は、サハ映画とアメリカ映画を上映していました。もちろんロシア映画も上映します。



市内各所にあるパソコン店。ヤクーツクはいわば陸の孤島のような都市なのでインターネットは重要です。すでに、無線LANでインターネットに接続することができるWi-Fi (ワイファイ) がかなり普及しています。



サハの英雄叙事詩「オロンホ」の名前がつけられたショッピングセンター。都市で暮らす人々の心の中にも神話的世界が生きているのかなと感じる場面があります。

杉嶋俊夫 略歴：

東京都町田市生まれ。千葉大学卒。大学で認知心理学を専攻、途中で言語学に転向、シベリア先住民の言語を学ぶ。院在籍時に西シベリア・トムスクの大学に留学したことがきっかけで、トムスク市やロシア西部・リャザン市にある大学で日本語を教える。今回の派遣も、リャザン大学の時と同じ日露青年交流センターの派遣プログラムによる。